

学校環境適応感尺度「アセス」 を活用した支援チャート

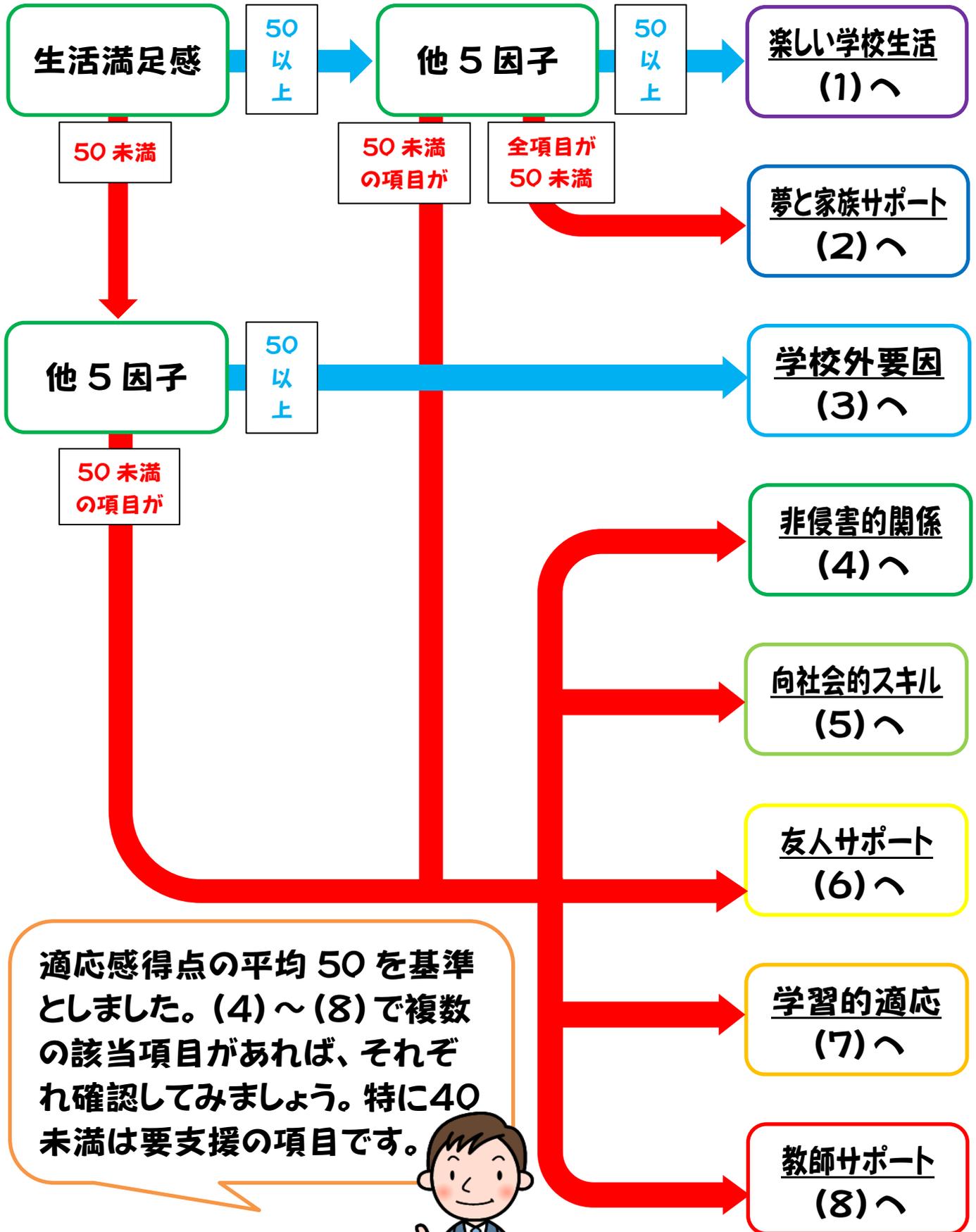


青森県総合学校教育センター
教育相談課 佐藤 耕人

1 アセスを活用した支援チャート



スタート



適応感得点の平均 50 を基準としました。(4)～(8)で複数の該当項目があれば、それぞれ確認してみましょう。特に40未満は要支援の項目です。



2 気をつけるポイントは…



(1) 学校生活を楽しみ、人間関係や学習に満足しています。

アセスの6因子の全てにおいて、適応感得点50未満の項目はありません。子どもの長所や自助資源（得意なこと、興味・関心等）を生かしながら、共感的・積極的・肯定的な関わりを継続していきましょう。

(2) 満足感を支えているのは、学校以外の要因にあります。

生活満足感以外の5因子が、全て適応感得点50未満の項目となっています。学習面・対人面ともに適応感が低いにもかかわらず、生活満足感が高くなっているのは、自分の夢や趣味に生きている子、家庭でのサポートがよい子であること等が推測されます。将来の職業や夢等、キャリア形成の視点からもサポートしながら、より積極的な関わり【P4(1)～(5)、P5参照】をしていきましょう。

(3) 家庭等の学校以外での生活に悩んでいるかも？

生活満足感が、適応感得点50未満の項目となっていますが、他の5因子の全てにおいて、50未満の項目はないので、学校以外（家庭や塾、習い事等）での不適応感が推測されます。日常会話の中で、学校以外での様子について触れる機会【P4(1)参照】を持ってみましょう。

(4) いじめや無視、悪口等を受けていると感じています。

非侵害的關係が、適応感得点50未満の項目となっています。いじめや無視、悪口等の侵害行為を受けていないか、友人との関わりを早急に見直す必要があります。まずは子どもの話をていねいに聴き、受容し、子どもと教師、子ども同士の関係をつくって【P4(1)～(3)参照】いきましょう。

【※さらに友人サポートの適応感得点が高い場合】

学級内にいくつかのグループが存在し、仲の良いグループ内では「友人サポート」があるものの、それ以外のグループから無視や悪口等侵害的な行為を受けている、あるいは学級以外の集団からの侵害的な行為を受けている可能性があります。

(5) スキルの低さから、良好な人間関係を築けていません。

向社会的スキルが、適応感得点50未満の項目となっています。他者と関わるスキル（能力・技能）の低さが、先生や友人との人間関係を築くことの障害となっている可能性があります。まずはソーシャルスキルトレーニングやアサーション・トレーニング等【P4(5)、P5参照】の活動を行い、他の子どもたちとの関係を築けるよう配慮していきましょう。

【※さらに友人サポートの適応感得点が高い場合】

仲の良い友達関係だけの小グループで活動しており、その集団内での限定的なスキルの可能性があります。そこで、グループの存在を認めつつ、閉じた集団から他の子どもたちと関わりをもてる開かれた集団づくりを意識した対人関係ゲーム、構成的グループエンカウンター等【P4(5)、P5参照】の活動を取り入れてみましょう。

(6) 友人からのサポートを受けていないと感じています。

友人サポートが、適応感得点50未満の項目となっています。友人との関わりを確認しましょう。また、子ども同士関わりあう場（交流・共行動）、認めあう場（共感・承認）、支えあう場（共感・支援）として、対人関係ゲーム、構成的グループエンカウンター、グループワーク・トレーニング等【P4(5)、P5参照】を取り入れ、教師がその子どもと他の子どもをつなぐ働きかけ【P4(1)～(3)参照】を行っていきましょう。

【※さらに向社会的スキルの適応感得点が高い場合】

スキルはあるのですが、話をする友だちがいない、あるいは友人関係で何らかのトラブルが生じている可能性があります。個別に面接相談をする【P4(1)参照】等、友人との関わりを確認しましょう。

(7) 今の学習（学力）の状況に満足していません。

学習的適応が、適応感得点50未満の項目となっています。学習方法等についての支援が必要です。また、学習に関する教師の直接的なサポートとともに、グループ学習等での対人関係を媒介とした間接的なサポート【P4(4)参照】も取り入れてみましょう。

(8) 教師から教育相談的サポートを求めています。

教師サポートが、適応感得点50未満の項目となっています。教師が自己開示し、また子どもの長所や自助資源（得意なこと、興味・関心等）を生かしながら共感的・積極的・肯定的関わりを増やして【P4(1)～(3)】いきましょう。

3 具体的なサポートは・・・



子どもの長所や資源(得意なこと、興味・関心等)を生かしながら共感的・肯定的・積極的関わりを増やすことがベースです。



(1) 心の居場所づくり

夢と家族S

学校外要因

非侵害的關係

友人S

教師S

- ①教師が自分のこと(趣味、家族、自分が子ども時代のこと等)を話し、自己開示をする。
- ②休み時間に一緒に遊ぶ、あるいは雑談等をする。
- ③生活記録ノートを活用し、子どもの興味・関心、考え、悩み等を理解する。
- ④非言語によって関心を示す(相槌を打つ、微笑みかける等)。
- ⑤気になる子どもに対して声かけ、あるいは個別面談を行う。

(2) 活躍・貢献できる場面の設定

夢と家族S

非侵害的關係

友人S

教師S

- ①行事や係活動等で、子どもが活躍したり、集団に貢献できる場면을意図的に設定する。

(3) 勇気づける場面の設定

夢と家族S

非侵害的關係

友人S

教師S

- ①子どもの努力、成長、集団への貢献等を共感的に(評価的ではなく)学級通信、短学活等で取りあげる。
- ②当たり前に行っていることに対して、注目・関心を示し、共感的に関わっていく。

(4) 学習面での個別支援

夢と家族S

学習的適応

- ①学習方法等を直接的に支援する。
- ②グループ学習等での対人関係を媒介として間接的に支援する。

(5) 友人とつなぐ場面の設定

夢と家族S

向社会的S

友人S

- ①人間関係づくりプログラム(P5参照)を実施する。
 - ・ ソーシャルスキルトレーニング(SST)
より良い対人関係や集団生活を営んでいくための技能を身に付ける訓練。
 - ・ アサーション・トレーニング
自分も相手も大切にしたい自己表現(アサーション)方法を身に付ける訓練。
 - ・ 対人関係ゲーム
ゲーム(遊び)を通して不安や緊張を緩和し、人と人をつなげて「群れ」として機能する集団づくりをする活動。
 - ・ グループワーク・トレーニング(GWT)
グループに与えられた課題を解決する過程で、協力したり葛藤を乗り越え、自分や他人の言動・感情・考え等に気づく活動。
 - ・ 構成的グループエンカウンター(SGE)
人間関係をもとにした出会い(エンカウンター)によって、自己理解・他者理解を深め、自己成長を促す活動。振り返りでの、本音と本音の交流を重視する。
- ②苦戦している子どもをサポートしてくれるような子に、本人の努力と苦戦している点を話し、サポートを依頼する等。

4 人間関係づくりプログラム



(1) 指導案・ワークシート集

青森県総合学校教育センター「自己肯定感を育む人間関係プロジェクト」で作成した**指導案・ワークシート集を参考**にすることができます。センターWebページにアップ予定です。

(2) 参考図書

以下の文献を参考にするのもよいでしょう。

- ・ 國分康孝 監修／片野智治 編集 1996 『エンカウンターで学級が変わる 中学校編』 図書文化社
- ・ 國分康孝 監修／國分久子 片野智治 編集 1997 『エンカウンターで学級が変わる Part2 中学校編』 図書文化社
- ・ 國分康孝 監修／大関健道 藤川章 吉澤克彦 國分久子 編集 1999 『エンカウンターで学級が変わる Part3 中学校編』 図書文化社
- ・ 國分康孝 監修／林伸一 飯野哲朗 築瀬のり子 八巻寛治 國分久子 編集 1999 『エンカウンターで学級が変わる ショートエクササイズ集』 図書文化社
- ・ 國分康孝 監修／林伸一 飯野哲朗 築瀬のり子 八巻寛治 國分久子 編集 1999 『エンカウンターで学級が変わる ショートエクササイズ集Part2』 図書文化社
- ・ 國分康孝 國分久子 総編集 2004 『構成的グループエンカウンター事典』 図書文化社
- ・ 相川充 佐藤正二編 2006 『実践！ ソーシャルスキル教育 中学校』 図書文化社
- ・ 田上不二夫 編著 2003 『対人関係ゲームによる仲間づくり』 金子書房
- ・ 田上不二夫 今田里佳 岸田優代 編 2007 『特別支援教育コーディネーターのための対人関係ゲーム 活用マニュアル』 東洋館出版社
- ・ 坂野公信 監修／横浜市学校GWT研究会著 2009 『改訂 学校グループワーク・トレーニング』 遊戯社
- ・ 坂野公信 監修／日本学校GWT研究会著 1994 『協力すれば何かが変わる≪続・学校グループワーク・トレーニング≫』 遊戯社
- ・ 日本学校GWT研究会編著 2003 『友だちっていいな 自分っていいな≪続・学校グループワーク・トレーニング3≫』 遊戯社